

親切運動の取組について

学校名 小矢部市立東部小学校

児童生徒数 74名

1 親切運動の取組の紹介

(1) 車いすバスケットボールで交流、盲導犬とのふれ合い体験（6学年）

小矢部市出身の車いすバスケットボール選手の方とバスケットボールを通じて交流した。障害を受け入れ向き合う姿やいつも笑顔で優しく語りかけてくれる姿を見て、どんな時も前向きに取り組むことの大切さに気付いた。また、盲導犬ユーザーや盲導犬とのふれ合いを通して、障害があっても何でも進んで挑戦していくことで自分の夢を実現できると学んだ。

(2) にっこり週間（全学年）

「にっこりあいさつ にっこり言葉 にっこり行動」を合言葉にして、自分も相手もにっこりするようなあいさつや言葉遣い、気持ちよく過ごすことができるような行動を心掛けている。各学年から合言葉が達成できるような活動を提案し、「にっこり週間」として全校で取り組んだ。5年生からの提案で地域の方に自分から挨拶することに挑戦したり、3年生からの提案で相手が温かい気持ちになるような言葉遣いをしたりした。児童が考えて提案した活動に取り組むことで、普段から合言葉を実践しようとする児童が増えた。また、合言葉に対する愛着が増した児童がたくさんいる。



(3) アルミ缶回収（全学年）

毎月1回、金曜日の朝、運営ボランティア委員を中心にアルミ缶回収をしている。集めたアルミ缶の収益で清楽園に車いすを贈っている。アルミ缶を持ってきてくれた人の人数を全校放送で呼びかけることで、協力する児童を増やしたり、今後の活動につなげたりできるようにしている。

2 親切運動に取り組んで

○取組の成果

- ・自分の思いだけでなく相手の立場や気持ちを考えながら活動しようとする意識が育ち始めている。
- ・親切を少しずつもち寄ると、たくさんの人が笑顔になることができると実感している。
- ・家族や地域の方に協力してもらうことで、たくさんアルミ缶を回収できている。

○課題と今後に向けて

- ・引き続きにっこり週間に取り組んでいくことで、全校で相手を思いやる気持ちを育てていきたい。
- ・6年生の福祉教育に関わる活動等を他の学年にも共有できるようにしたり、児童会から参加を呼びかけたりしてボランティアへの興味をもたせるようにしたい。